

**【特徴】**

当センターの消化器外科、肝胆膵外科、乳腺外科は消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）と肝胆膵領域の疾患ならびに乳腺疾患の治療を行っている。手術件数は年間900件を越え、特にがん治療の専門病院として国内でも有数の患者数を誇っている。また、最先端医療である内視鏡下手術も積極的に行っており、その症例数は国内有数である。当センターでの研修は、この豊富な症例から外科医に必要とされる技術、知識を修得することを目標としている。また、教育にも力を注いでおり、step by step方式で手術経験を積み、外科専門医、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医、肝胆膵外科高度技能医、日本乳癌学会専門医の育成を行っている。

**【研修目標】**

## 1. 一般目標

安全で信頼される医療を提供し、患者および社会のニーズに答えるために、レベルの高い包括的で全人的な外科診療を実践できる専門医を養成するため、以下の4項目を到達目標として、段階的に進む研修を実施する。研修期間は修練開始登録を行なった後、卒後初期臨床研修を含み5年以上とする。

- (1) 外科専門医として、適切な外科の臨床的判断能力と問題解決能力を修得する。
- (2) 手術を適切に実施できる能力を修得する。
- (3) 医の倫理に配慮し、外科診療を行う上での適切な態度と習慣を身につける。
- (4) 外科学の進歩に合わせた生涯学習を行うための方略の基本を習得する。

## 2. 行動目標

- (1) 外科診療に必要な基礎的知識を習熟し、臨床応用できる。  
局所解剖、病理学、腫瘍学、病態生理、輸液・輸血、血液凝固・線溶系、栄養・代謝、感染症、免疫学、創傷治癒、周術期管理、麻酔科学、集中治療、救命・救急医療
- (2) 外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用ができる。
- (3) 一定レベルの手術（消化器・乳腺・内分泌・血管）を適切に実施できる。  
消化管および腹部内臓（50例）  
乳腺（10例）  
呼吸器（10例）  
心臓・大血管（10例）  
末梢血管（10例）  
頭頸部・体表・内分泌外科（10例）  
小児外科（10例）  
外傷（10例）  
内視鏡手術（10例）  
を含め、外科専門医取得に必要な経験必要症例数350例（執刀数120例）以上を経験する。
- (4) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。
- (5) 外科学の進歩に合わせた生涯学習を行う方略の基本を習得し実行できる。
- (6) 外科専門医を取得するための要件を満たす。

**【方略】**

- (1) 入院患者を主治医として担当し、検査、処置、診断、治療、経過観察を行う。
- (2) 術者または助手として手術を担当する。
- (3) 心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科で適宜短期の研修を行う。

- (4) 指導医のもとに全身麻酔、集中治療を学び、実践する。
- (5) 指導医のもとに外傷の診断、治療を行う。
- (6) コメディカルスタッフと協調、協力してチーム医療を実践する。
- (7) 症例検討会での討論、学会発表、論文発表を行う。

#### 【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

#### 【研修プログラム】

##### レジデント【卒後3～5年目】

日本外科学会の外科専門医修練カリキュラムに準じて消化器外科、肝胆膵外科、乳腺外科にて研修を行う。他科研修として心臓血管外科(2 か月)、呼吸器外科(2 か月)、小児外科(1か月)での研修を行う。また救命救急部(ECU)、集中治療部(ICU)及び関連病院研修(十三市民病院、公立豊岡病院但馬救命救急センター)から選択して研修を行う。350例(120例以上は術者として)以上の経験手術数、修練期間を満たして外科専門医試験を受験する。

##### シニアレジデント【卒後6年目以降】

###### <消化器外科、肝胆膵外科>

外科専門医に引き続く「外科関連サブスペシャリティ専門医」としての「消化器外科専門医」習得を目指す。日本消化器外科学会消化器外科専門医修練カリキュラムに準じた基礎的知識、診療技術、手術技術、医の倫理、生涯学習、医療行政を習得し、消化器外科専門医試験を受験する。以降は専門性を考慮した研修を行い、内視鏡外科技術認定医、肝胆膵外科高度技能医の習得を目指す。

参考：各学会ホームページ

- 日本消化器外科学会消化器外科専門医修練カリキュラム
- 日本内視鏡外科学会技術認定制度
- 日本肝胆膵外科学会高度技能医制度

###### <乳腺外科>

今後乳癌診療を専門にしたい医師が対象となる。専門過程であり、日本外科学会専門医を取得している医師が対象となる。

目標

日本乳癌学会専門医取得

目標達成努力項目

- 1) 日本乳癌学会認定医を取得（まだ取得していない場合）する。
- 2) 乳癌に対する診療（診断、手術、薬物治療、緩和治療など）を実践する。
- 3) 希望者には適宜他科（腫瘍内科、緩和医療科、形成外科および病理診断科など）での研修が可能である。
- 4) 学会発表、論文作成など学術的な活動を積極的に行う。
- 5) 乳腺外来を担当し、診断、治療のプロセスを適切に行える。
- 6) 初期研修医およびレジデントの指導が行える。

乳癌学会専門医修練カリキュラムの詳細は、日本乳癌学会会員ホームページ参照

#### 【見学等問い合わせ先】

消化器外科部長 山下 好人

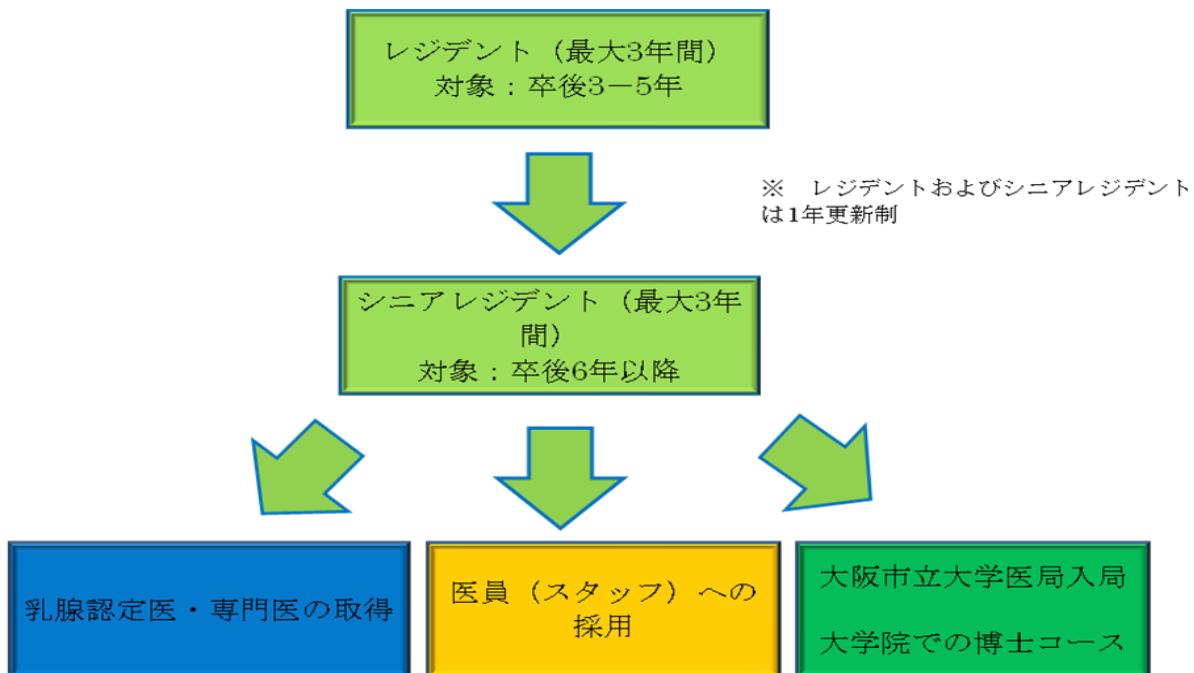
## 乳腺外科研修プログラム詳細

### 【はじめに】

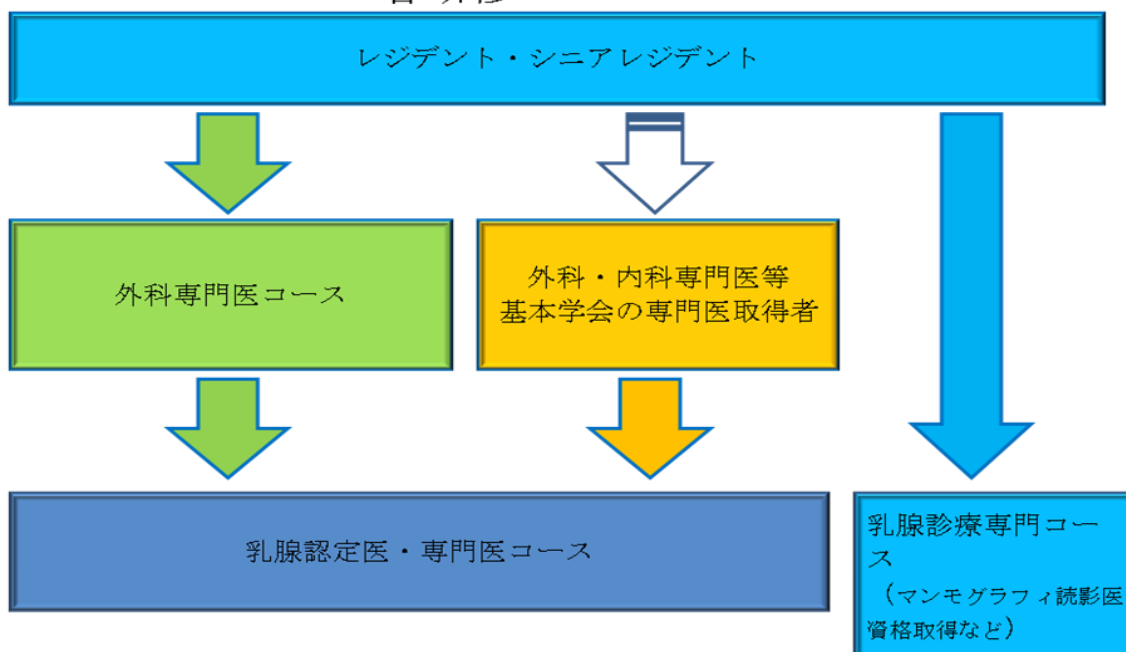
当研修プログラムは、乳癌を中心とした乳腺疾患に関して、診断・治療など幅広い知識と技能を習得することが目的で、日本乳癌学会の乳腺認定医、専門医を目指す方や、資格に関わらず乳腺疾患への診療に携わろうと考えている方のために各種研修コースを用意しています。

### 【研修期間】

1年更新制 : レジデント (最大3年) シニアレジデント (最大3年)



### 各研修コース



※ 乳腺診療専門コースは、乳腺認定医・専門医を目指す方、診断を主に研修するプログラムです。

### 1. 外科専門医コース

- (1) 対象は、初期研修終了（卒後2年目）以降の方。
- (2) 消化器外科のレジデント・シニアレジデントと同様に消化器外科の手術を含めて研修します。
- (3) 外来検査（エコー・針生検）の参加、乳腺カンファレンスの参加は必須です。
- (4) 外科専門医取得後、乳腺認定医・専門医コースへ移行します。

### 2. 乳腺認定医・専門医コース

- (1) 対象は、外科専門医を取得されている方。
- (2) レジデント・シニアレジデントとして当直業務（消化器外科を含む）があります。  
休日（土 / 日）1回      平日 2回 / 月
- (3) 外来検査（エコー・針生検）の参加、乳腺カンファレンスの参加は必須です。
- (4) 専門医コースの方は、外来を担当いたします。
- (5) 専門医コースの方は、腫瘍内科での研修が必須であり、希望に応じて病理診断科、形成外科、緩和医療科などの研修も可能です。
- (6) 認定医コースの方は、消化器外科の手術助手として手術に参加していただきます。

### 3. 乳腺診療専門コース

- (1) 対象は、初期研修終了（卒後2年目）以降の方。
- (2) 外来検査（エコー・針生検）および乳腺外科の手術、病棟処置が主たる勤務内容です。
- (3) 外来検査（エコー・針生検）の参加、乳腺カンファレンスの参加は必須です。
- (4) レジデント・シニアレジデントとして当直業務（消化器外科を含む）があります。  
休日（土 / 日）1回      平日 2回 / 月

## 【研修プログラム】

### 1. 外科専門医取得プログラム

- (1) このプログラムは、乳腺疾患に興味があり、乳腺認定医や専門医になりたい方のためのプログラムです。乳腺専門医の資格を得るためには、まず日本外科学会の専門医資格が必要です。
- (2) 日本外科専門医資格を得るためには、乳腺疾患のみならず、以下に記す手術症例数を経験する必要があります。

- ①消化器・腹部内臓      (50例)
- ②乳腺      (10例)
- ③呼吸器 (10例)
- ④心臓・大血管 (10例)
- ⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）      (10例)
- ⑥頭頸部・体表・内分泌外科      (10例)
- ⑦小児外科      (10例)
- ⑧外傷（多発外傷を含む）      (10例)

上記 ①～⑧分野における内視鏡外科（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）      (10例)

日本外科学会外科専門医 <http://www.jssoc.or.jp/procedure/specialist/index.html>

- (3) 当センターは、上記の全ての診療科を当センター内で研修することが可能です。
- (4) およそ2～3年で、上記の手術症例数を経験することが可能です。
- (5) 並行して、学会発表や論文執筆も行います。
- (6) 外科専門医取得後、乳腺認定および専門医のプログラムへと移行します。

## 2. 乳腺認定医取得プログラム

- (1) このプログラムは、日本外科学会専門医や日本内科学会認定医・専門医の資格があり、乳腺認定医を目指す方のためのプログラムです。
- (2) 乳腺認定医資格を得るためには、以下に記した内容が必要です。
  - ①基本的領域診療科（日本外科学会または内科学会）の認定医または専門医資格がある。
  - ②日本乳癌学会に継続4年以上在籍している。
  - ③学会が認定して認定施設において修練カリキュラムに従い、通算2年以上の修練を行う
  - ④診療経験として40例以上の乳癌症例の診療経験が必須
  - ⑤業績として、以下に記すA～Cのいずれかが必須
    - A： 筆頭者として1編以上の乳癌疾患に関する研究（症例報告も含む）を学会の認定した医学雑誌に掲載
    - B： 日本乳癌学会の総会で2件以上発表
    - C： 日本乳癌学会の総会で1件かつ同学会の地方会で2件以上発表
- (3) 修練カリキュラムは、基本的事項（乳腺の解剖、生理、乳癌の疫学、病理、バイオロジー、検診、診断、治療、リハビリテーション、緩和・終末期医療および医療倫理）、専門的事項（各乳癌疾患、診断、治療、医療倫理など）と乳癌のみならず、他の乳癌疾患に関しても幅広い知識と経験するようになっております。
- (4) 並行して、マンモグラフィ講習会に参加し、マンモグラフィ読影医資格、超音波学会。
- (5) 学会発表や論文執筆も積極的に行います。
- (6) 基本的領域診療科の認定医ないし専門医の方では、約2年程度で認定医申請資格の③～⑤は満たされます。

## 3. 乳腺専門医取得プログラム

- (1) このプログラムは、日本外科学会専門医や日本内科学会専門医の資格があり、乳腺専門医を目指す方のためのプログラムです。
- (2) 乳腺専門医資格を得るためには、以下に記した内容が必要です。
  - ①乳腺認定医であること。
  - ②最低卒後7年（臨床研修終了後5年）以上であること。
  - ③乳癌100例およびその他の診療経験
  - ④診断（マンモグラフィ、超音波、CTないしMRI読影、生検等）経験
  - ⑤治療（乳癌手術100例以上、切開排膿術、腫瘍摘出術など20例、内分泌治療30例、化学療法30例 など）
  - ⑥乳癌疾患に関する業績（学会発表および論文発表）
- (3) 乳腺認定医の方では1～2年で、上記の手術症例数を経験することが可能です。
- (4) 並行して、学会発表（海外の学会参加も可能）や論文執筆も行います。
- (5) 幅広い知識を得るために、腫瘍内科はもちろんのこと希望時には病理診断科、形成外科、放射線科など3カ月ごとのローテーション研修も可能です。
- (6) 研究棟（研究助手あり）もあり、研究することも可能です。研究費50～200万円/年申請可。
- (7) 乳腺専門医資格取得が目標ですが、医員への採用の可能性や大学院での博士課程への進学の道（大阪市立大学腫瘍外科へ入局必要）もあります。

## 4. 乳腺診療専門コース

- (1) このプログラムは、乳腺認定医・専門医の資格は必要としないが、診断を中心に乳腺診療に興味があり、携わっていきたい方のためのプログラムです。
- (2) 乳腺認定医や乳腺専門医と標榜はできませんが、診断を中心に乳腺診療にかかわることが目標です。

- ①初期研修2年を終了したレジデントやシニアレジデントの方が対象となります。
- ②マンモグラフィ制度管理委員会が企画する講習会に参加し、マンモグラフィ読影医資格を取得します。
- (3) 学会発表や論文執筆も積極的に行います。
- (4) 研修期間は2年間程度です。

参考： NPO法人精中委ホームページ <http://www.qabcs.or.jp/>

NPO法人日本乳腺甲状腺超音波診断会議ホームページ <http://www.jabts.net/>

日本超音波医学会ホームページ <http://www.jsum.or.jp/index.html>

**【見学等問い合わせ先】**

乳腺外科部長            小川 佳成